



学思

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」——『論語・為政篇』

Newsletter No.75

2023年7月～9月

JSPS Beijing



目次

- センター長のコラム.....2
- 活動報告.....3-5
 - ・ JSPS 中国同窓会 2023 年総会
 - ・ JSPS 中国同窓会山東支部会
 - ・ JSPS モンゴル同窓会ミーティング
 - ・ 2023 年度希平会総会・第1回連絡会
- 活動記録 (2023年7月～9月)5
- 編集後記.....6

編集・発行

日本学術振興会北京研究連絡センター

国際学術交流事業の意義について

このコラムを担当するようになって5回目を迎えました。これまで JSPS の中国との交流の経緯を概観してきましたが、JSPS が中国との交流を開始した 1979 年は、JSPS が国際学術交流事業を中心として事業を飛躍的に拡大しつつある時期でもありました。研究者の受入れと派遣を相互に行う二国間研究者交流は、1971 年に開始された英国王立協会 (Royal Society) との日英科学者交流事業が皮切りであり、それに欧州各国との交流や、1978 年に始まる拠点大学事業を中心とする東南アジア諸国との科学協力事業などが続いています。

このように JSPS が国際的な学術交流を展開していくにあたり、その先駆けとして後に続く二国間研究協力のモデルとなったと言われているのが 1963 年度に開始された日米科学協力事業です。この日米科学協力事業は、池田勇人首相とジョン・F・ケネディ大統領との共同声明に基づいて開始されました。日米両国にとって、はじめての二国間科学協力事業ということで、両国の関係者が協議を重ねて試行しつつ事業形態が形作られていきました。このような重要な事業において米国側の実施機関である米国科学財団 (NSF) の日本側パートナーとして JSPS が選ばれたことは、JSPS の社会的ステータスの向上に大いに寄与したといえます。

ところで、この日米科学協力事業が立ち上がった当時は、冷戦のさなかにはありました。ソ連との厳しい対立関係にある米国と科学協力事業を開始するという一方で、日本の学術界からは、科学協力が日米両国の政治利益に従属されるのではないかという強い懸念が示されています。このような懸念への対応について、『日本学術振興会 30 年史』には以下のように記されています：

「協力事業を管理するために設置された科学協力に関する日米委員会は、そのような懸念を考慮しつつ、事業開始当初において協力の諸原則を確立し実施分野を定める等、日米両国の科学者の自主性によって事業を運営していった。また共同研究やセミナー実施の過程において、日米双方の科学者が学問的な交流だけではなく人間的な相互理解を深めていった。こうして、冷戦時代におけるイデオロギイ的対立とは別の次元にあるものとして二国間研究協力を確立し、その後における学術交流のモデルとなった。」

日米科学協力事業が開始されてから半世紀以上が経ちました。その後国際社会は大きく変わり国際協力のあり方も変化を求められるようになりましたが、日米科学協力事業開始当初に協議された「協力の諸原則」には今日でも学ぶべきことが数多くあるように思います。JSPS の国際学術交流がどのような基礎の上に築かれてきたのか振り返りつつ、世界の研究者コミュニティの声に耳を傾けていかなければと思う次第です。

(参考文献) 日本学術振興会『日本学術振興会 30 年史』1991 年 9 月 21 日

センター長 山口英幸

JSPS中国同窓会2023年総会

2023年9月9日（土）及び10日（日）、内モンゴル自治区フフホト市の内モンゴル農業大学において、JSPS中国同窓会の2023年度総会が開催されました。オーガナイザーは、JSPS中国同窓会会員である内モンゴル農業大学の芒来教授でした。全体で100名を超える同窓会会員及び同行者の出席があり、過去最大規模の総会となりました。



同窓会総会の様子

開会式では、同窓会長、華東師範大学楊彪教授及び当センターの山口英幸センター長より挨拶がありました。また、楊同窓会長より、2022-2023年度の活動実績及び2023-2024年度の活動計画について、同窓会員への報告がなされました。



楊彪同窓会長



山口英幸センター長

同窓会長からの報告の後に行われたセミナーのセッションでは、同窓会員6名の同窓会員が自身の研究に関する発表を行いました。

「学者講壇」講演者：

- 劉東波教授（南京大学外国語学院）
- 胡建輝教授（上海交通大学船舶海洋・建築工程学院）
- 成做云教授（北京林業大学園林学院）
- 王永進教授（南京郵電大学通信・情報工程学院）

張付申研究員（中国科学院生態環境研究センター）

郭利民教授（華中科技大学環境学院）

午後には、芒来教授、陳永福教授を含めた内モンゴル農業大学の先生方による研究発表の他、大学内の施設見学や研究室紹介が行われました。研究室紹介では、実際に内モンゴル農業大学馬属動物研究センターと関わりのある商品が提供され、参加者は馬のミルクを原料とする食品・飲料を楽しみながら、研究室の説明を受けました。



芒来教授（内モンゴル農業大学
動物科学学院）



陳永福教授（内モンゴル農業大学
食品科学・工程学院）

翌10日（日）は、午前中に内モンゴル博物院に足を運び、内モンゴル地域を中心とした中国の文化・歴史について理解を深めました。午後には奥威馬文化生態旅游区を訪問し、同企業が展開する馬を中心とした産業について、王紅英総経理より説明を受けました。現地では、厩舎の見学や馬のレースの観戦も行われました。

2023年度同窓会総会は、芒来教授をはじめとする同窓会員及び現地の先生方の多大なご尽力もあり、大盛況のうちに終わることができました！



集合写真（内モンゴル農業大学にて）

JSPS中国同窓会山東支部会

2023年7月24日(月)広州市においてJSPS中国同窓会山東支部会シンポジウム「水産物に付着する寄生虫及び寄生虫が水産物の品質の安全性に与える影響」を開催しました。

JSPS中国同窓会シンポジウムは、例年、JSPS中国同窓会会員からの申請を受けて開催しているイベントであり、今回は、青島農業大学の章晋勇教授がコーディネーターを務めました。会場となった広州白雲国際会議センターの会議室には、事前登録者数を大きく超

える延べ50名以上の研究者の方々が集い、活発な意見交換が行われました。

シンポジウムの開会にあたり、関係機関の代表者にご挨拶いただいた後、JSPS北京研究連絡センターの山口英幸センター長が登壇し、開会の挨拶及びJSPSの実施している事業について説明を行いました。また、各研究者が発表・報告を行ったセッションではJSPSを通じて日本から参加された山口大学・佐藤宏教授も登壇し、講演を行いました。今回、コーディネーター

を務めた青島農業大学・章晋勇教授は、2022年度外国人研究者再招へい事業(BRIDGE Fellowship Program)に採択され、昨年度に日本を訪問されています。

JSPS北京研究連絡センターは、中国



佐藤宏教授



章晋勇教授



集合写真

の研究者の方々が、JSPSが実施する学術国際交流事業の実施・採用期間が終了した後、中国国内において引き続き日本との学術・研究交流を継続していくことができるよう、JSPS中国同窓会シンポジウムを含む各種同窓会行事への支援を充実させていきたいと考えています。

JSPSモンゴル同窓会ミーティング 「The National and Global Knowledge Networks」

2023年8月26日(土)、モンゴル国・ウランバートル市に位置するモンゴル国立大学において、モンゴル同窓会の立ち上げに向けたシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、過去にJSPSの国際交流事業に参加したモンゴル国の研究者が中心となって開催したもので、各研究者からの発表が行われた後、正式なJSPS同窓会組織としての承認を得るために、今後も活動を継

続していくことが確認されました。

当センターからは山口英幸センター長、小原和樹国際協力員が参加し、開会の挨拶及びJSPSの事業説明を行うとともに、同窓会組織としての活動方針や具体的な手続きについてアドバイスを行いました。

シンポジウムの合間には、参加者からJSPSの実施する国際交流事業に関する質問が相次ぎ、今後の同窓会組織



集合写真

の発展を感じることができました。

JSPS北京研究連絡センターは、今後もモンゴルにおけるJSPS同窓会員の活動を積極的に支援していきます。

2023年度希平会総会・第1回連絡会

2023年9月25日（月）に2023年度希平会総会及び第1回連絡会を開催しました。

4年ぶりの対面も含めた、初のハイブリッド形式での開催となった今回は、対面で14機関23名、オンラインで16機関39名と、多くの方々にご参加いただきました。

冒頭、総会で佐藤会長（福山市立大学）と川上副会長（創価大学）に役員をお願いしたい旨が提案され、決議・了承されました。

佐藤会長からは、希平会を通じて中国における日本の大学のプレゼンス向上に努め、日中友好の交流を深めていきたいとのこと挨拶をいただきました。



佐藤会長の御挨拶の様子

また、6つの参加機関からの現状報告及び事前に収集したアンケートからは、各機関とも対面交流の回復基調が見られました。同時に、オンラインを活用した交流のメリットを活かして、引き続きオンラインのイベント等を継続している機関も多数あることが明らかになりました。

2023年9月現在、希平会は正会員39機関、オブザーバー12機関となっています。今後も連絡会・セミナー開催を通じて活動を継続していく予定です。



対面参加者の集合写真

センターの活動記録

(2023年7月～9月)

7月

- 18日 韓国研究財団北京事務所来訪
- 24日 JSPS 中国同窓会山東支部会開催
- 26日 広報文化十一者会出席
- 28日 金子めぐみ副センター長着任

8月

- 7日 在中国日本国大使館訪問
- 16日 科学技術振興機構北京事務所、理化学研究所北京事務所訪問
- 17日 国家自然科学基金委員会訪問
- 18日 中国科学院訪問、北京大学「中日文化交流展」見学
- 21日 広報文化十一者会出席
- 24日～27日 JSPS モンゴル同窓会ミーティング参加
- 29日 中国科学院過程工程研究所セミナー出席

9月

- 4日 NSFC-JSPS 二国間交流事業セミナー参加
- 9日～10日 JSPS 中国同窓会総会開催
- 19日 中国社会科学院訪問
- 20日 広報文化十一者会出席
- 21日 北京日本倶楽部文化講演会出席
- 23日 広島大学北京研究センターセミナー参加
- 25日 2023年度希平会総会・第1回連絡会
- 27日 韓国研究財団北京事務所訪問

編集後記

渡航に向けてのビザ取得が遅れておりましたが、7月末にようやく北京に到着することができました。あいにくその週末は北京ではまれに見る大豪雨、日本にレインシューズを置いてきたことが悔やまれました。しかしその後はカラッとした北京らしい夏の気候が続き、快適に仕事を始めることができました。

関係機関へ挨拶回りをしたり、学会で記念スピーチをしたり、JSPS 中国同窓会総会へ出席したりと、目まぐるしく毎日が過ぎていき、そして国慶節休暇前には希平会総会を開催することができました。どのイベントも対面での交流が回復し、日中の学術交流の雰囲気を感じられることの有難さ・貴重さを、身をもって体感しています。

今年度も早くも半分を過ぎましたが、一日一日を大切に、好奇心と挑戦心を胸に精進していきたいと思っています。

副センター長 金子めぐみ



日本学術振興会 北京研究連絡センター

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING REPRESENTATIVE OFFICE

北京市海淀区西三环北路 89 号 中国外文大厦 A 座 404 室

郵便番号: 100089

Tel: + 86-10-8882-4331

Fax: +86-10-8882-4332

E-mail: beijing@jsps.org.cn

URL: www.jsps.org.cn



WeChat